

情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU 部会

放送業務委員会（第 51 回）議事概要（案）

日時：令和 5 年 10 月 30 日（月）15:00～16:45

場所：Web 会議(Webex)

出席者：

伊丹主査（東京理科大学）、伊藤専門委員（日本放送協会）、
 岩崎専門委員（東京農工大学）、浦野専門委員（日本テレビ放送網(株)）、
 岡村専門委員（(株)テレビ朝日）、児玉専門委員（一般社団法人電波産業会）
 鈴木専門委員（日本電信電話(株)）、西田専門委員（日本放送協会）、
 半澤専門委員（(株)TBS テレビ）、廣野専門委員（(株)フジテレビジョン）、
 藤井専門委員（日本放送協会）、丸茂専門委員（株式会社テレビ東京ホールディングス）、
 明堂専門委員（株式会社 KDDI 総合研究所）、山影専門委員（東芝インフラシステムズ(株)）

説明員：

大出氏（日本放送協会）、近藤氏（(株)TBS テレビ）、齋藤氏、（日本放送協会）、
 佐藤氏（日本放送協会）、當山氏（日本テレビ放送網(株)）

事務局：

総務省 情報流通行政局 放送技術課 山口課長、西村技術企画官、谷田補佐、伊藤係長

【配布資料一覧】

資料 放-51-1	放送業務委員会(第 51 回)議事概要(案)
資料 放-51-2	WP6A 会合報告書 (案)
資料 放-51-3	WP6B 会合報告書 (案)
資料 放-51-4	WP6C 会合報告書 (案)
資料 放-51-5	SG6 会合報告書 (案)
資料 放-51-6	<u>次回会合に向けた今後の対応 (案)</u>
資料 放-51-7	<u>勧告及び研究課題に係る提案の承認可否 (案)</u>
資料 放-51-8	<u>RA への対処 (SG6 関連)</u>
資料 放-51-9	今後の検討スケジュール (案)
資料 放-51-10	国際電気通信連合 (ITU) 2023 年世界無線通信会議 (参考資料) (WRC-23) の議題一覧 (第 146 回情報通信審議会情報 通信技術分科会資料一部抜粋)
資料 放-51-11	放送業務委員会構成員名簿 (参考資料)
資料 放-51-12	<u>郵便投票関連文書</u> (参考資料)

※下線部の資料は構成員及び関係者限り。

議事概要

1. 事務局からの挨拶

事務局より、ITU-R SG6 議長を 2 期務めた西田専門委員及び SG6 関連会合の出席者への謝辞が述べられるとともに、RA-23 の出席者へ我が国から SG6 副議長として推薦する候補者の選出へ向けて協力を依頼する旨が述べられた。

2. 配布資料の確認

事務局より、配布資料の確認が行われた。

3. 前回議事概要の確認

伊丹主査より、資料 放-51-1「放送業務委員会（第 50 回）議事概要（案）」に基づき、第 50 回放送業務委員会の議事概要案の確認が求められた。議事概要案について構成員からの意見はなく、案のとおり総務省 HP に掲載することとなった。

4. ITU-R SG6、各 WP 会合の結果について

4.1. WP6A 会合の結果について

佐藤氏より、資料 放-51-2「WP6A 会合報告書（案）」及び資料 放-51-6「次回会合に向けた今後の対応（案）」に基づき、WP6A 会合の結果について説明が行われた。特段質疑はなく、案のとおり承認された。

4.2. WP6B 会合の結果について

大出氏及び近藤氏より、資料 放-51-3「WP6B 会合報告書（案）」及び資料放-51-6「次回会合に向けた今後の対応（案）」に基づき、WP6B 会合の結果について説明が行われた。質疑応答の後、案のとおり承認された。質疑応答の概要は次のとおり。

浦野専門委員： Smart Media Transport (SMT) に関して、中国からの提案は、ISO/IEC の標準自体を変更するのではなく、勧告 BT. 2074 に中国独自の拡張を追加するというものであり、日本の 4K/8K 放送に採用されている MMT へ影響は及ばないという理解で良いか。

近藤氏： 今回の中国の提案は MMT の拡張領域を使用し拡張しているものであり、日本で使用されている MMT へ影響するものではない。

浦野専門委員： ハイブリッド配信コンテンツのチャンネルマッピングに関して、今回は出力文書がなかったが、次回会合に向けて再び韓国が新勧告草案の提案をするかと思われる。日本としては次回会合に向けてどのように対応すべきか、見通しはいかがか。

近藤氏： 今回、勧告化したい韓国と、まずは既存のレポートを拡充させるべきという我が国との間で意見が折り合わずに、両者とも出力文書が作成されなかった。韓国は次回会合でさらに詳細な提案を出すという意向を示しており、次回も提案してくる可能性は高い。我が国としての対処はこれから考えていきたい。

西田専門委員：韓国は、自らの提案は既存の提案にはないユニークなものと主張しているが、それに対して、我が国や他国も含め、どこがユニークであり勧告化すべきものなのか、全く理解が進んでいない。その意味で韓国からの詳細な提案は歓迎する。

4.3. WP6C 会合の結果について

大出氏及び當山氏より、資料 放-51-4「WP6C 会合報告書（案）」及び資料放-51-6「次回会合に向けた今後の対応（案）」に基づき、WP6C 会合の結果について説明が行われた。質疑応答の後、案のとおり承認された。質疑応答の概要は次のとおり。

浦野専門委員：HDR-TVの明るさの評価のための客観測定アルゴリズムに関する新勧告案が仮採択されたとのこと。これに類する過去の作業として音声ラウドネスがあるが、音声ラウドネスではアルゴリズム、レベルメーター、ターゲットラウドネス値の勧告が策定されている。今回、アルゴリズムが新勧告案となった一方で、レベルメーターについては寄与がなかったと聞いている。BBCなどが積極的に提案していたと思うが、今後、レベルメーターに関する勧告化の予定はあるのか。さらに、今後ターゲットの値を決めるような動きはあるのか。

當山氏：レベルメーターについては、直近の会合では議論は行われておらず、今回も特に議論はなかった。今後、どのようなレベルメーターが必要かということについて議論されていくと考えている。

4.4. SG6 会合の結果について

齋藤氏より、資料 放-51-5「SG6 会合報告書（案）」に基づき、SG6 会合の結果について説明が行われた。特段質疑はなく、案のとおり承認された。

5. 勧告及び研究課題に係る提案の承認可否について

事務局より、資料 放-51-7「勧告及び研究課題に係る提案の承認可否（案）」に基づき、ITUから照会されている新勧告案1件、勧告改訂案8件、勧告廃止提案39件、研究課題改訂案7件、研究課題廃止提案2件について説明が行われ、特段意見なく承認された。

6. RA へ向けた対処（SG6 関連）について

事務局より、資料 放-51-8「RA への対処（SG6 関連）」に基づき、RA-23 に向けた対処方針について説明が行われ、特段意見はなかった。

7. 今後の検討スケジュールについて

事務局より、資料 放-51-9「今後の検討スケジュール（案）」に基づき、今後のスケジュールについて説明が行われた。

以上